

宗教と平和

戦争・正義・平和 — 宗教多元社会の中で —

小原 克博 (<http://www.kohara.ac>)

1

こはら かつひろ
授業担当者：小原 克博

- ・ 同志社大学 神学部・神学研究科 教授、良心学研究センター長 (2015年-)
- ・ ☞ 良心学研究センター <http://ryoshin.doshisha.ac.jp>
- ・ 同志社大学 一神教学際研究センター (CISMOR) センター長 (2010-15年)
- ・ ☞ CISMOR <http://www.cismor.jp>
- ・ 京都・宗教系大学院連合 (K-GURS) 議長 (2013-15年)
- ・ ☞ K-GURS <http://www.kgurs.jp>
- ・ 京都民医連中央病院 倫理委員会 委員長 (2003-2018年)

2

こはら かつひろ
授業担当者：小原 克博

- ・ 専門はキリスト教思想、宗教倫理学、一神教研究
- ・ 先端医療、環境問題、性差別などをめぐる倫理的課題や、宗教と政治の関係、および、一神教に焦点を当てた文明論、戦争論に取り組んでいます。著書に『一神教とは何か——キリスト教、ユダヤ教、イスラームを知るために』（平凡社新書）、『宗教のポリティクス—日本社会と一神教世界の邂逅』（晃洋書房）、『神のドラマトゥルギー—自然・宗教・歴史・身体を舞台として』（教文館）、『原理主義から世界の動きが見える—キリスト教・イスラーム・ユダヤ教の真実と虚像』（共著、PHP研究所）『キリスト教と現代—終末思想の歴史的展開』（共著、世界思想社）などがあります。

3

講義概要 (シラバスより)

4

この授業は、現代世界における紛争、戦争、テロなどの問題を比較宗教学的な視点から考察し、異なる信仰や価値観を持つ者同士が、地域社会や国際社会において、いかに共存・共生していくかを考えるために必要な知識や認識を得ることを目的としています。

5

この授業はブレンディッド・ラーニングとして実施され、主体的に学びたい方のためのものです。この授業は、教室での対面授業8回、オンデマンド授業7回によって構成されています。詳しいことは初回の授業で説明します。下記「授業計画」において各オンデマンド授業に付されている日付は課題提出の締め切り日を示しています（教室での授業はありません）。都合のよい時間にオンデマンド動画で学習し、各回で示された課題を期日までにe-class（同志社大学のラーニング・マネジメント・システム）上に提出していただきます（各回とも月曜日12:00が締め切りです）。

6

また、学びの成果を確認し、理解を深めるために教室での対面授業を行います。教室授業は、小グループでのディスカッションと発表、全体討議によって構成されるアクティブラーニングが中心となります。この授業は、教室授業の回数が少なく、学習時間の自由度は高いですが、学習量は決して少なくありません。リーディング・アサインメントもあります。真剣に学びたい人のみ、履修するようにしてください。1週間に2回授業がある形になりますので、春学期の半分で授業は終了します。

7

ブレンディッド・ラーニングの目的

「工場型」一斉授業（教師主導）

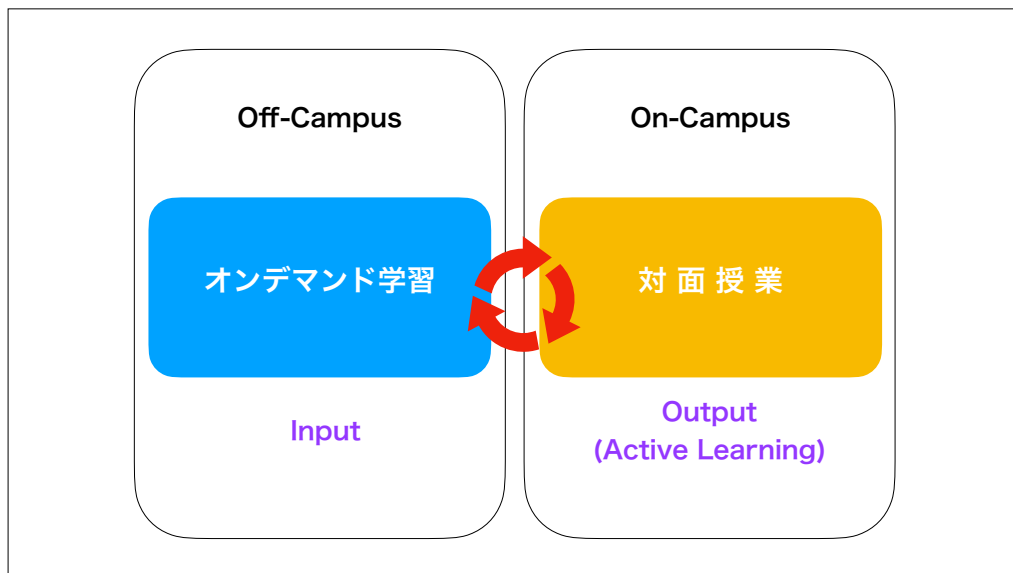


特定の場所・時間からの解放

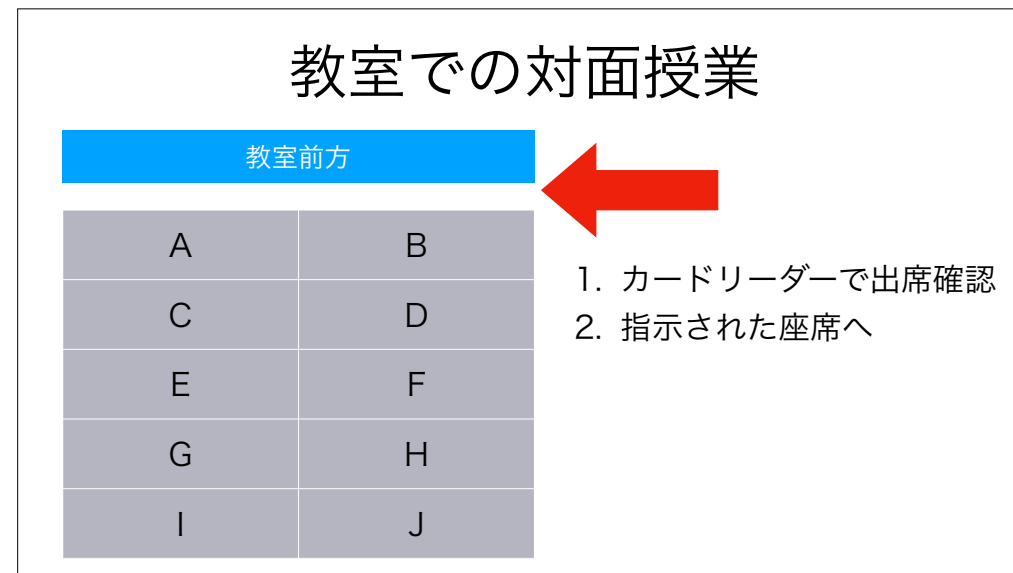
個別学習 + 学生主導



8



9



10

1	4/13	(教室1) 導入——なぜ人は戦うのか？
2	4/19	(オンデマンド1) 戦争を理解するための諸概念
3	4/20	(教室2) アクティブラーニング
4	4/26	(オンデマンド2) 政治と宗教のはざまの暴力
5	4/27	(教室3) アクティブラーニング
6	5/10	(オンデマンド3) 絶対平和主義
7	5/11	(教室4) アクティブラーニング
8	5/17	(オンデマンド4) 正戦論
9	5/18	(教室5) アクティブラーニング
10	5/24	(オンデマンド5) 聖戦論
11	5/25	(教室6) アクティブラーニング
12	5/31	(オンデマンド6) 政教分離
13	6/01	(教室7) アクティブラーニング
14	6/07	(オンデマンド7) 平和と正義を実現するための課題
15	6/08	(教室8) まとめ、期末試験

11

1	4/13	(教室1) 導入——なぜ人は戦うのか？
2	4/19	(オンデマンド1) 戦争を理解するための諸概念
3	4/20	(教室2) アクティブラーニング
4	4/26	(オンデマンド2) 政治と宗教のはざまの暴力
5	4/27	(教室3) アクティブラーニング
6	5/10	(オンデマンド3) 絶対平和主義
7	5/11	(教室4) アクティブラーニング
8	5/17	(オンデマンド4) 正戦論
9	5/18	(教室5) アクティブラーニング
10	5/24	(オンデマンド5) 聖戦論
11	5/25	(教室6) アクティブラーニング
12	5/31	(オンデマンド6) 政教分離
13	6/01	(教室7) アクティブラーニング
14	6/07	(オンデマンド7) 平和と正義を実現するための課題
15	6/08	(教室8) まとめ、期末試験

課題提出の
締め切り日
(月曜日12:00)

12

20世紀には二つの世界大戦をはじめ様々な戦争や紛争が起こり、また、21世紀はじめには9・11同時多発テロ事件が起こりました。それらの背景や影響を、特に宗教思想との関係に注目して考えていきます。ポスト冷戦時代の地域紛争に関しては、ユダヤ教・キリスト教・イスラームの相互関係が不可避免的に問われてきました。そうした一神教に特徴的に見られるロジックを分析すると同時に、一見、宗教対立と見えるものが、いかに政治的に偽装されたものであるかにも、注意を払っていきたいと考えています。

13

戦争に対する考え方を歴史的に俯瞰するために、キリスト教史において現れた、戦争をめぐる三つの類型、すなわち、絶対平和主義 (pacifism)、正戦 (just war) 論、聖戦 (holy war) 論を取り上げます。ただし、それがキリスト教世界内部の論理として自己完結しないように、他の宗教、特にイスラームの戦争理解や正義理解、および、日本における戦争・平和理解を参照軸として用います。

14

日本の論壇では、一神教を独善性の象徴と見なし、多神教的思考にこそ世界平和の鍵があるという安直な主張がいまだに繰り返されています。こうした平板な文明論を批判的に克服していくために、宗教と暴力の関係を多元的に理解していきます。また、近代日本が戦争への道を歩み始めたとき、そこには宗教および宗教政策が深く関与していました。グローバルな文脈の中で、日本の近現代史における問題点も掘り下げていきます。

15

テキスト

- 第一章 日本文化論としての一神教批判
- 第二章 一神教の起源と展開
—— グローバル・アクターとしての一神教
- 第三章 一神教の基本的な考え
—— 何が同じで、何が違うのか
- 第四章 一神教世界における戦争
—— 戦争は不寛容の結果か
- 第五章 現代世界における課題
—— 不寛容をいかに抑制するか
- おわりに
—— 「寛容の文化」を育てていくために



16

成績評価基準

オンデマンド授業での課題提出 (各回5%×7回)	35%	課題において求められていることを的確に理解し、自分の意見をしっかりと表現してください。
教室での対面授業への出席 (各回5%×8回)	40%	ディスカッションでの積極的な貢献を評価します。なお、10分以上の遅刻は出席としませんのでご注意ください。交通遅延等、不可避の事情があった場合には証明書を出していただければ考慮いたします。
期末試験（授業内評価）	25%	授業で扱った内容の内、基本的な項目を出題します。

17

なぜ人は戦うのか

18

戦争と人間

- ・ ホッブズ的人間観
 - ・ 無秩序（戦争）から秩序へ（『リヴァイヤサン』1651年）
- ・ ルソー的人間観
 - ・ 秩序から無秩序（戦争）へ（『人間不平等起源論』1755年）

19

戦争の原因

- ・ 考古学・文化人類学の視点から
- ・ 経済的要因
- ・ 思想的要因
- ・ 近代国家と戦争

20

人間の道徳性と社会・国家の非道徳性

ラインホルド・ニーバー『道徳的人間と非道徳的社会』（原著1932年）より

愛国心はそのなかに倫理的パラドクスをもっており、最も鋭い凝った批判でなければいかなる批判も受けつけないものである。そのパラドクスとは、愛国心は、個人の**非自己中心主義**が国家の**利己主義**に転化する、ということである。

21

国家への忠誠心とは、もしより低い忠誠心や地方的利害などくらべるならば、それは高度な**利他主義**の形態である。それゆえ、それはすべての利他的衝動の担い手となるのであり、そして、あるときには、その忠誠心は、個人が国家とその事業にたいしてもつ批判的態度をほとんどまったく破壊してしまうほどの熱烈さをもって、表現されるのである。この献身の無条件的性格が、まさに国家的権力の根拠そのもの、またその力をなんの**道徳的抑制なし**に行使する自由の根拠そのものなのである。このようにして、個人の**非自己中心主義**は、国家の**自己中心主義**を助長するのである。

22

民衆と暴力

- ・ 暴力は国家が独占しているとは限らない。近代日本においても民衆が暴力を振るうケースがあった。
- ・ 新政反対一揆：明治政府による近代化政策に対する反発。賤民廃止令への反発として被差別部落が襲われた。
- ・ 関東大震災時（1923年）における朝鮮人虐殺

【参考】藤野裕子『民衆暴力——一揆・暴動・虐殺の日本近代』中公新書、2020年。

23